

令和元年度 京都市地域リハビリテーション推進会議 次第

令和元年 11月21日（木）午後3時00分から
地域リハビリテーション推進センター研修室

1 委員紹介

2 議長・副議長選出

3 報告

（1）令和元年度地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

- （別紙1） 地域リハビリテーション推進研修実施状況
- （別紙2） 地域リハビリテーション推進研修職種別延べ受講者数
- （別紙3） 地域リハビリテーション推進研修号外チラシ
- （別紙4） 電動車椅子講習会チラシ
- （別紙5） 体力測定会&からだの相談会チラシ

（2）令和元年度高次脳機能障害者支援の実施状況等について

- （別紙6） 高次脳機能障害入門講座チラシ
- （別紙7） 高次脳機能障害専門研修チラシ
- （別紙8） 高次脳機能障害支援者のためのステップアップ研修チラシ
- （別紙9） よくわかる高次脳機能障害セミナーチラシ

4 その他

【資料一覧】

- ・ 委員名簿
- ・ 京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱
- ・ 令和元年度地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について
- ・ 令和元年度高次脳機能障害者支援の実施状況等について

【別冊資料】

- （資料1） 令和元年度地域リハビリテーション推進研修プログラム冊子
- （資料2） センター機関紙「リハ✿エール（第16号）」

京都市地域リハビリテーション推進会議委員名簿

令和元年7月1日現在

氏 名	所 属 機 関 等
上原 春男	学識経験者／医師
加藤 博史	学識経験者／龍谷大学名誉教授
山下 琢	京都府医師会理事
沖 豊彦	京都市社会福祉協議会事務局次長 京都市福祉ボランティアセンター所長
中西 大作	京都市身体障害者福祉施設長協議会会長代行
麻田 博之	京都府理学療法士会会長
平山 聡	京都府作業療法士会会長
関 道子	京都府言語聴覚士会会長
林 千鶴子	京都府看護協会常任理事
是澤 雅代	京都医療ソーシャルワーカー協会副会長
酒伊 良行	京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会理事
吉田 信吾	京都市居宅介護等事業連絡協議会理事
田中 仰	京都市生活介護等事業所連絡協議会主任
井上 基	京都府介護支援専門員会会長
阪本 一郎	京都市保健福祉局障害保健福祉推進室企画課長
菅野 明宏	京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課長
西尾 健	京都市地域リハビリテーション推進センター所長

京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱

(目的)

第1条 京都市内における地域リハビリテーションの推進について、障害のある人が自立して住み慣れた地域でより質の高い生活が送れるように、本市と医療、福祉、介護、教育等の各分野の関係機関及び団体（以下「関係機関等」という。）が連携して地域におけるリハビリテーションを推進するため、専門的な見地から幅広く意見を求めることを目的として、京都市地域リハビリテーション推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

(会議の役割)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について意見交換を行う。

- (1) 地域リハビリテーション推進事業の実施に関すること。
- (2) 地域リハビリテーションに関わる関係機関等の連携のあり方に関すること。
- (3) 生活期（維持期）におけるリハビリテーションの効果的な推進に関すること。
- (4) その他地域リハビリテーションの推進に関すること。

(委員)

第3条 推進会議の委員は、別表に掲げる障害者福祉やリハビリテーションに関する団体及び関係機関（以下「構成団体」という。）から推薦された者、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が依頼し、又は任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(議長等の指名)

第5条 市長は、委員のうちから推進会議の議長及び副議長を指名する。

2 議長は推進会議の進行をつかさどる。

3 議長に事故があるときは、副議長がその職務を代理する。

(推進会議の開催等)

第6条 推進会議は、市長が召集する。

2 市長は、必要に応じて課題別・分野別等のワーキンググループを開催することができ、ワーキンググループに関する事項は別に定める。

3 市長は、必要があると認めるときは、第3条に定める委員以外の関係者に出席を求め、説明及び意見を聴くことができる。

(事務局)

第7条 推進会議の事務を処理するために、京都市地域リハビリテーション推進センター企画課に事務局を置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、保健福祉局長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(関係規約の廃止)

2 京都市地域リハビリテーション協議会規約（以下「旧規約」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際、現に旧規約に基づく京都市地域リハビリテーション協議会（以下「協議会」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日に推進会議の委員として依頼され、又は任命されたものとみなす。また、協議会の会長及び副会長にある者は、この要綱の施行の日に推進会議の議長及び副議長として指名されたものとみなす。この場合において、その依頼され、又は任命されたもの並びに指名されたものとみなされる者の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年12月1日から施行する。

京都市地域リハビリテーション推進会議構成団体等

団体名及び関係機関名等
学識経験者
一般社団法人京都府医師会
社会福祉法人京都市社会福祉協議会
京都市身体障害者福祉施設長協議会
一般社団法人京都府理学療法士会
一般社団法人京都府作業療法士会
一般社団法人京都府言語聴覚士会
公益社団法人京都府看護協会
京都医療ソーシャルワーカー協会
京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会
京都市居宅介護等事業連絡協議会
京都市生活介護等事業所連絡協議会
公益社団法人京都府介護支援専門員会
京都市保健福祉局障害保健福祉推進室
京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課
京都市地域リハビリテーション推進センター

令和元年度地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

1 地域リハビリテーション推進事業

(1) 研修・指導事業

ア 地域リハビリテーション推進研修（別紙1，2，3，別冊資料1）

市内福祉サービス事業所等に勤務する職員に対して，リハビリテーションをはじめ福祉・介護サービスに関する知識及び技術の向上を図ることを目的に研修を実施している。

平成30年度からは，より地域課題に即応した内容と講師の充実を図るとともに，健康長寿のまち・京都推進室及び京都市こころの健康増進センターとの連携により，座学の一部を共催とする取組を行っている。

毎回，開催日前に号外チラシを作成し，関係機関に改めて送付するなど，積極的な周知を実施したことで，今年度については，昨年度に比べ受講者の総数は増加する見込みである。

<地域リハビリテーション推進研修実施状況>

		29年度	30年度	令和元年度	増減 (30→R01)
座学	講座数	26	24	23	-1
	定員数	1,664	1,536	1,472	-66
	受講者数	1,041	1,275	9月末までの受講者数 826 10月以降の申込者数 522	
実習	講座数	25	22	16	-6
	定員数	256	200	142	-58
	受講者数	138	158	9月末までの受講者数 72 10月以降の申込者数 77	

《関連資料》

（別紙1）地域リハビリテーション推進研修実施状況

（別紙2）地域リハビリテーション推進研修職種別延べ受講者数

（別紙3）地域リハビリテーション推進研修号外チラシ

（別冊資料1）地域リハビリテーション推進研修プログラム冊子

イ 総合支援学校等教職員研修事業

市内の総合支援学校, 肢体育成学級や通級指導教室等に従事する教職員のリハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため, 各校の希望に沿った研修等を実施している。

<総合支援学校等教職員研修事業実施状況>

	29年度	30年度	令和元年度（9月末現在）
事例研修	3校21回 延べ64名受講 ・西総合支援学校 ・朱雀第七小学校 ・東山総合支援学校	2校21回 延べ62人受講 ・西総合支援学校 ・大原野中学校	1校6回 延べ24人 ・西総合支援学校
肢体育成学級研究会	3校6回 延べ57名受講 ・桂東小学校 ・西院中学校 ・小野小学校	2校3回 延べ20人受講 ・大原野中学校 ・山ノ内小学校	10月以降に2校4回 実施 予定 ・山ノ内小学校 ・大原野中学校

ウ 障害福祉サービス事業所等訪問支援事業

市内の障害福祉サービス事業所等からの依頼に基づき, 利用者個々の身体状況の把握や介助の方法等について, 当センターの専門職員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）が訪問のうえ助言を行っている。

平成31年3月に作成した「障害福祉サービス利用者支援事例集（第2版）」を研修参加者や企業などにも配布し, 具体的な支援方法に関して理解を深めていただくとともに, 相談事例の紹介チラシを新たに作成し, 事業の普及啓発に努めている。

今年度については, 昨年度, 試行実施した訪問型体力測定を本事業のメニューとして追加し, 通年で申込みを受け付けるなど事業内容の充実を図った。また, 生活介護や就労移行・就労継続支援等の事業所や介護保険関係の事業所からの訪問依頼も増加しているほか, 過去に訪問した事業所から同一対象者の経過確認等のための再訪問依頼があるなど, 事業所との信頼関係は徐々に深まっている。

今後は, 新規の事業所からの依頼が更に増えるよう, 引き続き積極的な周知活動を行っていく。

<訪問実績>

		29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
生活介護	訪問箇所数(箇所)	11	13	7
	延訪問回数(回)	22	26	9
	延指導職員数(人)	60	75	25
就労移行・ 就労継続支援	訪問箇所数(箇所)	5	9	3
	延訪問回数(回)	7	14	5
	延指導職員数(人)	17	24	12
居宅介護	訪問箇所数(箇所)	12	10	4
	延訪問回数(回)	3	3	1
	延指導職員数(人)	21	34	11
その他 (相談支援事業所等)	訪問箇所数(箇所)	24	45	27
	延訪問回数(回)	32	44	24
	延指導職員数(人)	257	488	210
計	訪問箇所数(箇所)	52	77	41
	延訪問回数(回)	64	87	39
	延指導職員数(人)	355	621	258

エ 電動車椅子講習会(別紙4)

京都府警察中京警察署交通総務課及び電動車いす安全普及協会の協力を得て、電動車椅子を利用している方、これから利用を考えている方やその介助者、更にケアマネジャーなど利用に関する相談を受ける立場にある方等を対象に、電動車椅子を安全に利用していただくため、適切な操作方法等について実技を中心とした講習会を実施している。

平成29年度からは、障害者総合支援法で電動車椅子支給を受けた方等に対して、必要に応じ、個別で操作指導を行っている。

<電動車椅子講習会実施状況>

	29年度	30年度	令和元年度
実施回数	2回	2回	2回実施予定
参加者数	24名	27名	

《関連資料》

(別紙4) 電動車椅子講習会チラシ

オ 関係機関等への講師派遣研修

(ア) 地域ガエルのお出かけ講座

当センターでは従来から関係機関等からの依頼に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職員による講師派遣を行い、リハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図っている。

平成29年度からは、リハセン内の高次脳機能障害者支援センターの取組と共同して、新たに出張講座として「地域ガエルのお出かけ講座」を立ち上げ、派遣可能な内容をメニュー化のうえ、チラシを作成してPRする等、積極的に事業展開を図ったところ、障害福祉サービス事業所内での職員研修や居宅介護等事業所連絡会の研修講師の依頼など、講師派遣依頼が増加した。

平成30年度についても更なる周知を実施した結果、事業所内の職員研修や障害者団体の研修等、依頼内容の幅も広がり、派遣回数、受講者数ともに増加している。

(イ) その他の講師派遣

地域ガエルのお出かけ講座でメニュー化していない内容や、他機関と共同で講師を行う場合等についても、従来どおり関係機関からの依頼に基づき、当センターで対応可能なものについては、講師の派遣を行っている。

<講師派遣研修の状況>

		29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
地域ガエル のお出かけ 講座	箇所数	11	15	8
	派遣回数	12	16	8
	受講者数	243	454	160
その他講師 派遣	箇所数	4	3	2
	派遣回数	7	8	6
	受講者数	213	130	30
計	箇所数	15	18	10
	派遣回数	19	24	14
	受講者数	456	584	190

＜講師派遣の内訳（令和元年度分（９月末現在））＞

	依頼者	派遣目的	派遣職員	参加者	参加人数
地域ガエルのお出かけ講座	紫竹アイアイハウス	支援者の腰痛予防について	P T 2 名	支援職員	14
	京都市総合福祉協会 榎原居宅支援センター	支援者の腰痛予防について	P T, O T 各 1 名	支援職員	33
	京都市陶化地域包括支援センター	身体機能維持, 転倒予防	P T 1 名	利用者 (一般市民)	23
	左京区社会福祉協議会	身体機能維持, 転倒予防	P T 1 名	利用者 (一般市民)	15
	生活サポートセンター「とらい」	身体機能低下や転倒予防	O T 2 名	ヘルパー	19
	京都市御池老人デイサービスセンター	口腔ケア, 誤嚥予防	S T, O T 各 1 名	支援職員	28
	福) 京都福祉サービス協会西京事務所	腰痛予防, 持ち上げない介護	P T, O T 各 1 名	常勤支援職員	19
	ボランティアグループ そよかぜ会	身体機能低下や転倒予防	O T 2 名	ボランティア メンバー	9
その他の講師派遣	鳴滝総合支援学校（６回）	介護職員初任者研修養成講座	P T, O T, N s 各 1 名	受講対象高校生（３年５名）	30

(2) 啓発事業

ア 地域リハビリテーション交流セミナー

医療，福祉のみならず多くの市民の参加を求め，障害のある方とふれあうことにより，障害の有無に関わらず地域で豊かに生活できる環境づくりについて考える機会として，毎年度，テーマを変え，セミナーを開催している。

平成３０年度は，「障害を越え世界でかがやく ～車いすダンス 私の挑戦～」をテーマに３月に開催した。

令和元年度についても地域のニーズを踏まえ，広く市民に普及・啓発することを目的として開催する。（令和２年２月開催予定）

＜参考＞平成３０年度の実施状況

第３５回 平成３１年３月１９日

「障害を越え世界でかがやく ～車いすダンス 私の挑戦～」 参加者数：１５４人

イ センター機関紙「リハ✿エール」の発行（別冊資料２）

センター事業に関する情報等を発信するために発行し、関係機関に配布している（平成２７年１１月に創刊し、３箇月に１回程度の頻度で発行）。

今後も内容の充実とともに、より手に取って読んでいただける紙面づくりに努める。

<令和元年度の発行状況>

発行月	内容
令和元年 ５月 (第１５号)	・研修の案内 ・障害者支援施設のプログラムの紹介（レクリエーションスポーツ）、利用者の事例紹介 等
令和元年 ８月 (第１６号)	・事業、イベントの案内 ・障害者支援施設の利用案内 等

《関連資料》

（別冊資料２）「リハ✿エール」第１６号

ウ 「ほほえみ広場２０１９（※）」でのブース出展

平成３０年度に引き続き、京都市障害保健福祉推進室が主催する「ほほえみ広場２０１９」（１０月１９日（土）、梅小路公園芝生広場）に、ブースを出展、ロコモ度チェックや体脂肪率・BMI等の測定を通して身体機能維持向上への関心を促すとともに、当センターの取組について事業チラシを配布するなどPRを実施する。

※ 障害のある市民の方への理解の促進と社会参加の推進を目的に、障害のある人もない人も共に交流する催し。ステージ企画、どなたでも参加できるレクリエーション、ほっとはあと製品（授産製品）の販売や、飲食模擬店など様々な催しが行われる。

2 相談事業

(1) からだの動きに障害のある方の体力測定会&からだの相談会（別紙５）

自身の体力を確認し、身体機能の維持・向上及び社会参加の促進を図ることを目的として、平成２７年度から実施しており、平成２８年度からは体力測定会終了後、専門職員（医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、管理栄養士、ケースワーカー）による個別相談会も併せて実施している。

<体力測定会&からだの相談会実施状況・参加者数>

		２９年度	３０年度	令和元年度
秋開催分	第１回	１１	１３	８
	第２回	１７	１２	
春開催分	第１回	３		
	第２回	１３		

※測定項目：血圧、握力、下肢筋力、棒反応、長座位体前屈、バランス機能、歩行速度など

《関連資料》

（別紙５）体力測定会&からだの相談会チラシ

(2) 失語症のある方の相談支援事業

失語症のある方やその家族、支援者に対して、失語症のある方の社会参加促進を図るため、平成28年度から実施している。

言語聴覚士が中心となって個別相談やグループワークを実施し、障害の理解を深めていただくとともに、コミュニケーション手段の助言や会話の練習を行うほか、利用できる社会資源の紹介と利用のための橋渡しをしている。

<失語症のある方の相談支援事業実施状況>

	29年度	30年度	30年度 (9月末現在)
相談者数	21	9	7
うち継続相談者数	3	6	3
延べ相談件数	49	19	18

(3) おはなし広場

言語訓練を終了した言語に障害のある方を対象に、自信を持って社会参加できるよう、言語聴覚士が中心となって語らいの場を提供し、社会活動への参加促進に取り組んでいる。

これまでは当センター附属病院等の元利用者を対象に事業を実施していたが、平成29年度からは失語症のある方の相談支援事業のグループワークの一つとして位置付け、当事者間での語らいや交流の場として引き続き支援するとともに、対象を元利用者に限定することなく、関係機関にチラシを配布するなど広く周知し、新規の利用者拡大を図っている。

新規の参加希望者も徐々に増えており、グループワーク定員数（10名）に近い参加会もあるなど、地域で生活されている失語症の方のコミュニケーションの場として活用のニーズが認められる。当センター以外の場所での開催等、事業拡大については、地域や介護保険事業所等、関係機関との連携も図りながら、検討していく必要がある。

<おはなし広場実施状況>

	29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
実施回数	30	30	15
参加者数	142	212	91

(4) その他の専門相談（からだの動きに障害のある方の相談等）

からだの動きに障害のある方等からの様々な相談や社会活動，社会参加に関する相談，福祉用具全般に係る利用相談等，障害のある方の障害特性や各々の活動目的に対応した専門相談を実施している。

<相談実績>

	29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
からだの動きに係る相談	94	72	39
福祉用具に係る相談	18	8	3

地域リハビリテーション推進研修実施状況
【座 学】

令和元年度は9月末現在

平成29年度				平成30年度				令和元年度			
内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率
ソーシャルワーク概論と援助技術	64	27	△ 37	笑いと介護	64	36	△ 28	災害時障がいのある方高齢者はどう生き抜くか	64	29	△ 35
相談援助における面接の基本姿勢	64	25	△ 39	傾聴とアサーション	64	45	△ 19	対人援助職に効くストレスマネジメント	64	43	△ 21
介護予防・日常生活支援総合事業について	64	24	△ 40	自立支援に繋げる福祉用具の選定・利用方法	64	37	△ 27	利用者のやる気、QOLにつながる多職種連携	64	10月以降	—
地域包括ケア総合事業とその移行について	64	30	△ 34	地域のリハ専門職と連携した生活機能向上に向けた取り組み	64	34	△ 30				
障害当事者が伝える感謝と本音	64	28	△ 36	生活の自立に向けた住宅改修のポイント	64	45	△ 19				
知的障害について	64	46	△ 18					知的障害の方の加齢変化～ダウン症～	64	57	△ 7
知的障害のある人の日中活動支援	64	44	△ 20								
				精神障害①さまざまな依存症	64	69	5	精神障害の方の地域支援～医療機関との連携～	64	66	2
				精神障害②薬と生活	64	73	9	精神障害①気分障害	64	91	27
				精神障害③ひきこもり入門	64	57	△ 7	精神障害②ひきこもり	64	10月以降	—
				精神障害のある方の家族支援	64	57	△ 7	精神障害③統合失調症	64	10月以降	—
								精神障害④アルコール依存症	64	10月以降	—
難病の方への支援の実際	64	27	△ 37	パーキンソン病・症候群の疾患理解と支援の実際	64	65	1				
難病について～症状の理解と現状～	64	30	△ 34	難病の方のQOLを高める在宅自立支援	64	58	△ 6				
障害のある方の就労支援①	64	39	△ 25								
障害のある方の就労支援②	64	43	△ 21								
障害のある方の就労支援③	64	41	△ 23								
障害者相談支援事業所の現状と課題、地域連携	64	28	△ 36								
				障害がある方が地域で暮らし続けるために	64	32	△ 32				
医療的ケアの緊急対応とリスクマネジメント	64	24	△ 40	高齢者や障害のある方のフレイル	64	59	△ 5	サルコペニアを予防・改善する栄養食事ケア	64	63	△ 1
				医療的ケアの緊急対応とリスクマネジメント	64	50	△ 14	サルコペニアへの効果的な運動	64	63	△ 1
摂食嚥下とその対応	64	24	△ 40	医療的ケアが必要な方への地域支援の実際	64	35	△ 29	医療的ケア児の基礎知識	64	20	△ 44
								重症障害児者の食事(摂食・嚥下)	64	23	△ 41
ことばの発達	64	59	△ 5					高齢者のための摂食・嚥下機能支援	64	10月以降	—
発達障害の特性理解と支援の実際	64	67	3					ことばの運れのある方とのコミュニケーション～マカトン法～	64	65	1
自閉症、アスペルガー症候群の特性	64	85	21	発達障害に関する基本的理解	64	77	13	自閉症スペクトラムの特性理解	64	86	22
精神障害について	64	55	△ 9	大人の発達障害	64	71	7	障がいのある方の性教育・金銭教育	64	58	△ 6
気分障害の方の就労支援の実際	64	42	△ 22	運動の不器用さのある子どもたちにたいする理解と支援	64	50	△ 14	重度脳性麻痺の方の支援	64	26	△ 38
統合失調症の方への支援の実際	64	59	△ 5	利用者の感覚特性に応じた施設環境の工夫	64	43	△ 21	行動障害の理解と支援～自傷・他害行為～	64	87	23
				性への問題行動への対応	64	59	△ 5	ペアレントトレーニング	64	10月以降	—
				発達障害の子どもたちとその保護者に対するライフステージに応じた支援	64	55	△ 9	発達障害を有する子どもへの発達支援	64	10月以降	—
				発達障害のある子どもたちに見られる睡眠障害について	64	43	△ 21				
認知症について～総論～	64	34	△ 30					認知症の方のコミュニケーション法	64	49	△ 15
認知症の方への支援の実際	64	30	△ 34								
アルコール・薬依存症の方への支援	64	46	△ 18								
				てんかんの基礎知識	64	47	△ 17	てんかんの基礎知識と発作時の介助	64	10月以降	—
障害者差別法解消法をどう活用するか	64	21	△ 43								
				アંગー・マネジメント入門	64	78	14				
片付けが苦手な障害者の特性に合わせた整理収納支援	64	63	△ 1								
合計(26講座)	1,664	1,041	△ 623	合計(24講座)	1,536	1,275	△ 261	合計(23講座)	1,472	826	—

注1) 会場は、いずれも地域リハビリテーション推進センター研修室

地域リハビリテーション推進研修実施状況

令和元年度は9月末現在

【実 習】

平成29年度				平成30年度				令和元年度			
内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率	内容	定員	実績	対定員実績率
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	4	△ 4	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～お手堅体操編～	8	9	1	現場に活かす！機能維持体操～座位でできる集団体操編～	8	9	1
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	0	△ 8	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～お手堅体操編～	8	9	1	現場に活かす！機能維持体操～座位でできる集団体操編～	8	9	1
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	3	△ 5	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～お手堅体操編～	8	8	0	現場に活かす！機能維持体操～臥位でできる個別運動編～	10	6	△ 4
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	3	△ 5	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～ストレッチ編～	8	6	△ 2	現場に活かす！機能維持体操～臥位でできる個別運動編～	10	10	100%
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	8	0	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～ストレッチ編～	8	4	△ 4				
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	8	0	現場に活かす！運動メニュー実践のコツ～ストレッチ編～	8	4	△ 4				
からだの動かかし方～介助等における基本動作～	8	5	△ 3	現場で役だ立つ！介助方法～起き上がり編～	8	4	△ 4				
				現場で役だ立つ！介助方法～起き上がり編～	8	6	△ 2	現場で役だ立つ！介助方法～ベッド上移動・起き上がり編～	8	8	0
				現場で役だ立つ！介助方法～起き上がり編～	8	2	△ 6	現場で役だ立つ！介助方法～ベッド上移動・起き上がり編～	8	0	△ 8
				現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	8	7	△ 1	現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	8	9	1
				現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	8	7	△ 1	現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	8	8	0
								現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	8	8	100%
おでかけしよう！（体育館）	6	0	△ 6	現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	6	2	△ 4	現場で役だ立つ！介助方法～移乗編～	6	10	100%
おでかけしよう！（体育館）	6	4	△ 2	おでかけしよう！（体育館）	6	6	0	お出かけしよう！（体育館）	6	6	100%
おでかけしよう！（体育館）	6	2	△ 4	おでかけしよう！（体育館）	6	6	0				
ごはんを食べよう！（ADL室）	6	2	△ 4	ごはんを食べよう！（ADL室）	6	8	2	ごはんを食べよう！（ADL室）	6	6	100%
ごはんを食べよう！（ADL室）	6	3	△ 3	ごはんを食べよう！（ADL室）	6	6	0				
ごはんを食べよう！（ADL室）	6	5	△ 1								
トイレに行こう！（ADL室）	6	4	△ 2	トイレに行こう！（ADL室）	6	8	2	トイレに行こう！（ADL室）	6	6	100%
トイレに行こう！（ADL室）	6	8	2	トイレに行こう！（ADL室）	6	6	0				
トイレに行こう！（ADL室）	6	4	△ 2								
お風呂に入ろう！（ADL室）	6	3	△ 3	お風呂に入ろう！（ADL室）	6	5	△ 1	お風呂に入ろう！（ADL室）	6	8	2
お風呂に入ろう！（ADL室）	6	5	△ 1	お風呂に入ろう！（ADL室）	6	4	△ 2				
お風呂に入ろう！（ADL室）	6	5	△ 1								
うまい自助具の活用で	8	2	△ 6								
車椅子のシーティング	30	20	△ 10	車椅子のシーティング	30	14	△ 16	車椅子のシーティング	30	15	△ 15
介助リフトの有効活用	6	3	△ 3								
失語症の方もグループワーク	6	3	△ 3	失語症の方もグループワーク	6	4	△ 2	失語症の方も一緒に楽しめるレクリエーション	6	6	100%
ゲームを通してグループワーク	6	8	2	ゲームを通してグループワーク	6	5	△ 1	ゲームを通してグループワーク	6	6	100%
食べる力を支える 口腔のケア	40	14	△ 26								
生活を支える排泄ケア	40	20	△ 20								
				認知症のレクリエーション	30	28	△ 2				
合計(25講座)	256	138	△ 118	合計(22講座)	200	158	－	合計(16講座)	142	72	－

注1) 会場は、地域リハビリテーション推進センター研修室、体育館、ミーティングルーム、日常動作訓練室(ADL室)

令和元年度地域リハビリテーション推進研修職種別延べ受講者数(9月末現在)

※網掛けは構成比が10%以上のもの

		生活支援員	相談員	ホームヘルパー	看護師	機能訓練指導員	ケアマネジャー	介護職員	ケースワーカー	保健師	教員	サビ管 サビ管理者	保育士	セラピスト	事務	管理栄養士 栄養士	就労支援員	その他	不明	合計
		受講者数	214	57	43	17	11	61	60	3	83	7	66	33	66	28	15	0	42	20
座学	構成比	26%	7%	5%	2%	1%	7%	7%	0%	10%	1%	8%	4%	8%	3%	2%	0%	5%	2%	100%
	受講者数	7	2	6	0	4	0	38	0	0	0	4	0	8	0	0	0	0	3	72
実習	構成比	10%	3%	8%	0%	6%	0%	53%	0%	0%	0%	6%	0%	11%	0%	0%	0%	0%	4%	100%
	受講者数	221	59	49	17	15	61	98	3	83	7	70	33	74	28	15	0	42	23	898
合計	構成比	24.6%	6.6%	5.5%	1.9%	1.7%	6.8%	10.9%	0.3%	9.2%	0.8%	7.8%	3.7%	8.2%	3.1%	1.7%	0.0%	4.7%	2.6%	100.0%

○座学については生活支援員や保健師、セラピスト、ケアマネジャーの参加が多く、実習については生活支援員や介護職員等、実際に介助を行う立場の方の参加が多い。

○その他には、健康運動指導士や歯科衛生士、社会福祉士、心理士等を含む。

関係各位

日頃は、京都市の地域リハビリテーションの推進に御協力をいただきましてありがとうございます。
以下の研修の日程が近づいてまいりました。是非ともご参加ください。よろしくお願いいたします。

地域リハ推進センター相談課



参加費
無料！

地域リハ
号外19号



令和元年度地域リハビリテーション推進研修

令和元年11月22日（金）

13時30分～15時30分

「てんかんの基礎知識と発作時の介助」

講師：川崎医院 院長 精神科医 川崎 淳 氏

てんかん発作にはさまざまな種類があり、その様子も人によって異なります。
発作か否かの判断やその初期対応、発作の誘因や予防法、発作を繰り返すことによる脳への影響など、さまざまな側面からてんかんに関する理解を深めます。

また、実際の発作場面の実演や看護師による介助の実演を通して、発作の観察ポイントを知り、発作発生時の具体的な対応方法について学びます。

場 所：京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室
京都市中京区壬生仙念町30 市バス「四条御前通」下車



申込用紙はコチラ→



ご連絡はFAXでお願いします。

お申込み・問合せ先 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課

TEL 823-1666（午前8時30分～午後5時）

FAX 842-1541



地域リハビリテーション推進事業

「令和元年度
第1回

電動車椅子の講習会」を

開催します。

電動車椅子は、
歩行に困難を感じる方々の
移動手段として普及してきています。
その一方で、操作ミスや
傾斜・段差による転倒や事故なども
発生しています。

- これから電動車椅子を利用したいと考えている方
- 既に、電動車椅子を利用されている方
- ケアマネジャー等電動車椅子を勧める立場にある方

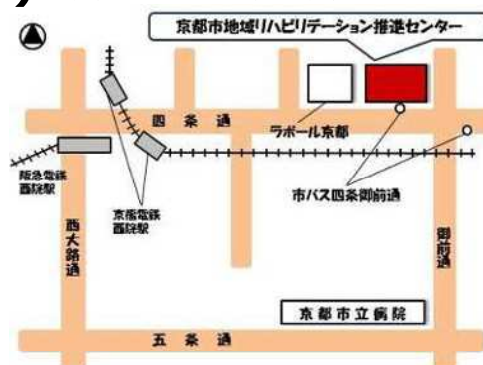
安全に利用していただくために、是非この機会にお申し込みください！

1 日 時 **令和 元年 10月15日 (火)** 午後1時30分～午後4時

令和2年3月にも同じ内容の講習会を開催予定です。

2 場 所 京都市地域リハビリテーション推進センター
3階体育館

市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅から 徒歩約3分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分



3 内 容 午後1時30分～ 講 習「交通ルールについて」

講 師：京都府警察中京警察署 交通課署員

午後2時～ 講 習「電動車椅子の種類と基本操作について」

講 師：地域リハビリテーション推進センター職員

午後2時45分～ 実 技「実際に乗ってみましょう」

4 定 員 20名

電動車椅子に実際に
乗ることができます！
慣れている方もこの機会に
もう一度チェックしてみね

「地域に帰る」がモットー
京都市地域リハビリテーション推進センターの
キャラクター「地域ガエル」です

5 参 加 費 **無料**

6 申込期間 令和元年9月2日(月)～10月11日(金)

7 申込方法 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課へ、
電話または FAX でお申し込みください。※午前8時30分～午後5時(土・日・祝日を除く)
(TEL : 823-1666 FAX : 842-1541)

なお、先着順のため、定員になり次第締め切らせていただきます。



京都市
CITY OF KYOTO
京都市はSDGsを
支援しています。



主催 京都市
協力 京都府警察中京警察署、電動車いす安全普及協会
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
京都市印刷物 第314354号 令和元年8月





地域リハビリテーション推進センター

からだの動きに
障害のある方へ

「体力測定会&からだの相談会」

を開催します。

体力は疾病や加齢によって低下します。特にからだの動きに障害のある方については、障害の部位や程度によって早期に身体機能が低下すると言われています。日常生活を無理なく過ごせるよう、自分の体力を把握して維持することを心がけましょう。

また、そのためにどうすればよいか、理学療法士等の専門職によるからだの相談会も開催します。



ご自分の現在の体力を知るチャンスです！！是非この機会にお申し込みください。

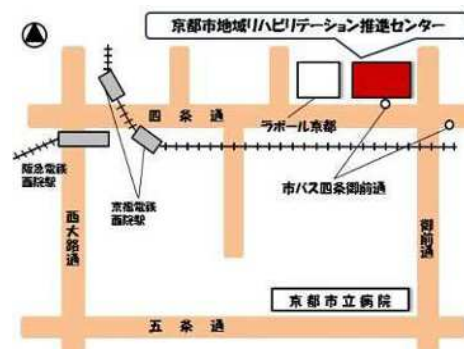
- 1 日 時 **第1回 令和 元年 9月24日(火)** ※どちらも
第2回 令和 元年 10月29日(火) 同じ内容です

〔午後1時30分～午後2時45分 体力測定会
午後2時45分～午後3時30分 からだの相談会〕

※ 例年、秋と春に開催していましたが、昨年度からは秋のみの開催としております。

- 2 場 所 京都市地域リハビリテーション推進センター
3階体育館

〔市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅から 徒歩約3分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分〕



- 3 対 象 からだの動きに障害のある京都市民
(肢体の身体障害者手帳をお持ちの方)

- 4 測定項目 血圧、握力、下肢筋力、棒反応、長座体前屈、バランス機能、歩行速度など
(骨密度、体脂肪率は希望者のみ) ※動きやすい服装でお越しください

- 5 定 員 各回とも 20名

- 6 参加費 **無 料**

- 7 申込期間 第1回：9月2日(月)～ 9月20日(金)
第2回：9月2日(月)～10月28日(月)



これまでの開催の様子(平成30年10月)

- 8 申込方法 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課へ、
電話またはFAXでお申し込みください。※午前8時30分～午後5時(土・日・祝日を除く)
(TEL: 823-1666 FAX: 842-1541)
なお、先着順のため、定員になり次第締め切らせていただきます。



京都市
CITY OF KYOTO
京都市はSDGsを
支援しています。



主催 京都市
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
京都市印刷物 第314356号 令和元年8月



令和元年度高次脳機能障害者支援の実施状況等について

1 高次脳機能障害者支援センター

当事者やその家族、関係機関等から高次脳機能障害に関する相談をお受けし、支援コーディネーター等専門スタッフが地域生活支援等の個別支援のほか、障害福祉サービス事業所や医療機関等への支援を行っている。（令和元年度は医師 1，保健師 1，看護師 2，作業療法士 1，心理士 2 の体制）

(1) 個別支援及び事業所支援

ア 相談状況（新規相談件数）

支援センターへの新規の相談件数については、平成 27 年 7 月の開設以降、毎月 20 件前後の状況が続いている。相談者の内訳としては、支援者からが最も多く、相談内容としては、症状や対応方法についての相談、当センター施設利用も含めた何らかのリハビリや訓練に関する相談、日中活動や就労・復職に関する相談が多い。

<相談者別状況>

相談者	29 年度	30 年度	令和元年度 (9 月末現在)
本人	41	47	20
家族	92	92	50
支援者等	136	142	62
合計	269	281	132

<方法別状況>

相談方法	29 年度	30 年度	令和元年度 (9 月末現在)
電話	248	242	120
来所	21	39	12
合計	269	281	132

<相談内容別状況>

相談内容	29 年度	30 年度	令和元年度 (9 月末現在)
疾病・症状	65	53	29
対応方法	22	19	6
診察希望	16	20	10
退院後の生活	17	11	3
リハビリ希望	34	28	12
当センター支援施設利用	59	81	28
日中活動（在宅福祉サービス等）	28	15	15
就労・復職	37	52	16
復学	3	3	1
運転関係	4	4	0
各種制度（手帳、年金など）	13	16	6
その他	59	40	25
うち、本障害に関すること	32	25	20
本障害に起因しない相談	27	15	5
合計	357	342	151

イ 支援状況

これらの相談に対して行った支援の具体的な内容は以下のとおりである。

年々支援件数，継続支援を要する相談ともに増加傾向にあり，中でも就労支援に関する支援ニーズが最も多く，就労支援に係る専門性の向上を図り，支援方法の充実強化に向け取組を進める。

＜支援内容の内訳及び件数＞（支援した内容をすべてカウント）

支援内容	29 年度	30 年度	令和元年度 (9月末現在)
対処方法や制度等の助言	2,144	2,378	1,064
当センター障害者支援施設	83	103	52
専門医による診察	203	166	100
確定診断	24	7	11
支援方策の策定	108	98	58
診断書作成	71	61	31
心理検査	31	5	13
作業体験プログラム	221	170	72
カンファレンス参加	47	29	5
当事者・家族交流会	163	129	73
その他	18	99	31
合計	2,910	3,079	1,410

＜継続支援の状況＞

(30 年度)

内訳	件数
継続支援を要する相談	109
支援終了件数	57
地域生活移行	13
就労	9
就労支援事業所利用	7
復学や学校生活	0
確定診断	19
その他（支援事項の消滅等）	9
令和元年度に引継ぐ件数	52
地域生活移行や地域生活	15
就労	29
復学や学校生活	3
確定診断	5
その他	0

(令和元年度 (9 月末現在))

内訳	件数
継続支援を要する相談 (30 年度からの継続 52 件+新規 23 件)	75
支援終了件数	24
地域生活移行や日中活動支援	5
就労（復職，新規）	2
就労支援事業所利用	3
復学や学校生活	0
確定診断	8
その他（支援事項の消滅等）	6
継続中の件数	51
地域生活移行や地域生活	15
就労	27
復学や学校生活	3
確定診断	6
その他	0

ウ 当事者・家族交流会

同じような経験者だからこそ「安心して話せる」「わかってもらえる」場を設け，孤独感や不安感の軽減と，今後の生活に役立つ情報交換や相互支援を図ることを目的に月に 1 回開催して

いる。

また、交流会参加者のニーズを踏まえ、生活を広げていくうえで利用できる制度や資源を知
ることを目的とした事業企画を行っている。平成30年度は、成年後見人制度についての講演
会を実施した。今年度は、2つの事業所の見学会を予定している。

<当事者・家族交流会実施状況>

	29 年度	30 年度	令和元年度 (9月末現在)
実施回数	1 1	1 2	6
延べ参加者数	1 6 3	1 2 9	7 3

エ 高次脳機能障害支援ネットワーク会議

平成27年度までは京都府が府下全域を対象に開催。平成28年度は京都市域での実施がな
かったが、平成29年度から共催により開催している。

高次脳機能障害に対する理解を深めるとともに、医療、福祉、介護、就労、教育、相談支援
等の高次脳機能障害者支援に関わる機関で、取組状況の情報共有、地域の置かれている課題に
ついて、意見交換を行い、関係機関相互の切れ目のない支援ネットワークの構築を図っている。

年度	実施日	内容	参加者 数
29年度	2月28日	第26回 京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議 講演 「意外と簡単?! 高次脳機能障害」 京都大学医学部附属病院精神科神経科 上田敬太氏 意見交換「京都市域における各機関の高次脳機能障害者支援状況」	80
30年度	3月4日	第29回 京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議 シンポジウム 「高次脳機能障害者の就労支援について」 話題提供：京都障害者職業センター 清水聡子氏 京都ジョブパークはあとふるコーナー 西川峰夫氏 !-style（エクスクラメーション・スタイル） 塩見茜氏 指定討論：京都大学医学部附属病院精神科神経科 上田敬太氏 グループでの交流・意見交換	76
令和 元年度	7月3日	第32回 京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議 鼎談 「病院から地域への展開」 三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック 長谷川幹氏 京都大学医学部附属病院精神科神経科 上田敬太氏 京都府リハビリテーション支援センター 武澤信夫氏 グループでの交流・意見交換	65

(2) 各種研修

ア 入門講座（別紙６）

高次脳機能障害のある方やその家族、支援者及び関心のある方を対象に、高次脳機能障害の基礎知識を学ぶ機会として平成２７年度から実施している。

平成２７年度は３回シリーズ・２クール、平成２８年度には「就労」と「失語症」の２テーマを加え、５回シリーズ・２クールで実施している。

平成２９年度からは、さらにテーマを充実させ「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」の１テーマを加え、６回シリーズ・２クールで実施している。

参加者の内訳としては、概ね当事者１割、家族２割、支援者やその他市民等が７割の比率となっている。

<入門講座実施状況>

開催回	内 容	参加者数					
		２９年度		３０年度		令和元年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
第１回	発症からのステップ	４１	３３	５５	２７	３２	
第２回	注意障害・記憶障害・遂行機能障害	６２	４６	７５	３１	６１	
第３回	社会的行動障害	４９	３２	６１	２９	５０	
第４回	失語症	５３	３３	７４	２５	５４	
第５回	就労	５０	３３	３８	３０	４５	
第６回	当事者・家族の声、関連事業所紹介	４６	３９	３３	２８	５１	

【関連資料】

（別紙６）入門講座チラシ

イ 専門研修（別紙７）

高次脳機能障害のある方やその家族を支援する保健・医療・福祉関係機関の職員等を対象に、専門知識及び支援技術等の向上を目的に年１回、著名な講師を招き、様々なテーマで専門研修を実施しており、市外の支援機関から参加希望の問合せも多い。

令和元年度は、高次脳機能障害をはじめとする中途障害の方の地域医療やリハビリテーションに、長期的な視点で関わっておられ、著書も多数の医師に講師を依頼し、地域リハビリテーションにおける支援の基本と実践に関する研修を実施した。

<専門研修実施状況>

年度	実施日	内 容	参加者数
２９年度	１０月２日	「高次脳機能障害のある人の地域生活 ～生活を支える基本と社会的行動障害への対応～」 名古屋市総合リハビリテーションセンター 深川和利氏、稲葉健太郎氏、杉山奈美枝氏	８５

30年度	11月7日	「明日から役立つ！高次脳機能障害へのアプローチ ～主体性を引き出す支援を学ぶ～」 世田谷ボランティア協会 ケアセンターふらっと 和田敏子氏，川邊循氏	79
令和元年度	7月3日	「高次脳機能障害のある方の再出発に向けて ～地域リハビリテーションにおける支援の基本と実践を学ぶ～」 三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック 長谷川幹氏	72

【関連資料】

(別紙7) 専門研修チラシ

ウ 支援者のためのステップアップ研修（別紙8）

入門講座を受講された方や同程度の知識のある支援者を対象に，平成28年度から支援者間の交流や実践的な支援方法を身につけることを目的に開催している。

平成28年度は3回シリーズ・2クールで実施していたが，平成29年度からは新たにテーマを2つ加え（「作業手順書の作成」，「移動手順書の作成」），5回シリーズ・1クールで実施した。令和元年度は，内容の見直しを図り，ケース検討編と手順書演習編として計4回の内容で実施予定である。

＜ステップアップ研修実施状況＞

開催回	内容	参加者数	
		29年度	30年度
第1回	講義と支援者交流	15	16
第2回	グループでのモデルケースの支援検討①	18	13
第3回	グループでのモデルケースの支援検討②	13	14
第4回	演習①～作業手順書の作成～	19	14
第5回	演習②～移動手順書の作成～	9	11

※令和元年度カリキュラム

開催回	内容
第1回	＜ケース検討編＞ 障害特性にあわせた支援方法の検討
第2回	＜ケース検討編＞ 環境調整や代償手段の活用，支援者の役割について
第3回	＜手順書演習編＞ 作業手順書の作成演習
第4回	＜手順書演習編＞ 移動手順書の作成演習

【関連資料】

(別紙8) ステップアップ研修チラシ

エ よくわかる高次脳機能障害セミナー（介護保険施設・事業所職員対象研修）（別紙9）

介護保険施設や事業所職員への高次脳機能障害の周知を目的に，平成30年度から，介護ケ

ア推進課の協力を得て、「京都市認定調査員現任研修会」の同日午前に、同会場で実施している。
令和元年度も実施予定である。

年度	実施日	内容	参加者数
30年度	11月19日	「認知症ケアの知識と経験はこう使える！ ～共通点と相違点～」 京都大学大学院医学研究科精神医学 上田敬太氏	292
令和元年度	12月16日 実施予定	同上	

【関連資料】

(別紙9) よくわかる高次脳機能障害セミナーチラシ

オ 医療機関、事業所等での研修・講師派遣

医療機関等との連携の強化や障害理解促進を目的に、平成28年度から医療機関（急性期や回復期病院等）、障害福祉サービス事業所等へ出向き、関係者に対する訪問研修等を実施している。

平成29年度からは「地域ガエルのお出かけ講座」として、支援機関だけでなく、地域に向いて研修する事業を立ち上げ、積極的にPRを行っている。

令和元年度は、新たに小児の高次脳機能障害について、関係者の理解促進や支援の充実に向けた研修をコーディネートし、実施した。

<医療機関、事業所等での研修・講師派遣の状況>

	29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
箇所数	13	17	3
派遣回数	14	19	3
受講者数	317	555	89

<講師派遣の内訳（令和元年度分（9月末現在））>

	依頼者	内容	派遣講師	参加者	参加人数
お出かけ講座	ニチイケアセンター伏見	症状と対応について	支援センターコーディネーター	ケアマネ等	17
その他の講師派遣	京都市立北総合支援学校	子どもの高次脳機能障害について	京都大学大学院医学研究科精神医学 宮城崇史氏	教職員	18
	京都市立呉竹総合支援学校	子どもの高次脳機能障害について	京都大学医学部附属病院 草野佑介氏	教職員	54

(3) 普及啓発

ア 市民向けの講座

高次脳機能障害について、広く市民の方に知っていただくため、市民向けのセミナーやイベント等を実施する。令和元年度についても、11月3日（日）に高次脳機能障害普及啓発フェア「こうじの世界 高次脳機能障害×麹 #3」を実施する。

<参考>平成30年度の実施状況

- 実施日：平成31年1月26日（土）
- テーマ：高次脳機能障害普及啓発フェア「こうじの世界 高次脳機能障害×麹 #2」
- 参加者：約900名

イ インターネットを使った情報発信

独自のホームページやフェイスブックを活用して、支援センター主催の研修や事業等の案内を適宜行っているほか、近隣地域で実施される研修や講座等の情報発信も発信している。

2 高次脳機能障害に特化した障害者支援施設

(1) 施設概要

当センター内に設置されている障害者支援施設について、平成27年4月から、支援対象者を従来の肢体不自由のある方から高次脳機能障害のある方に転換し、平成27年10月からは短期入所支援も開始している。

〔定員〕

- ① 自立訓練 40名（生活訓練15名，機能訓練25名）
（うち入所支援30名）
- ② 短期入所 2名（空床利用）

(2) 運営実績

新施設運営開始から一定年数が経過し、平成29年度以降、利用を開始されている方及び利用を終了される方は、それぞれ20名前後で（利用可能期間（機能訓練：最長1年6箇月，生活訓練：最長2年））安定している。引き続き、新規利用者の確保を図るとともに、利用者の退所支援にも取り組んでいく。

令和元年度の自立訓練の利用者については、定員40名に対し9月末現在で33名の利用となっている。今後は、回復期病院への訪問等を充実させ、当施設の取組についてPRするなど、医療機関との連携を深める取組を行い、入所、通所での利用を積極的に勧奨していく。

利用者支援の取組としては、平成31年1月から復職や就労希望者を対象に軽作業を通して、コミュニケーションの取り方や心構えなどを習得する「業務実習プログラム」を週1回実施している。

ア 訓練別利用者の状況

	総数		
		入所	通所
総数	33	10	23
生活訓練	14	4	10
機能訓練	19	6	13

(令和元年9月末現在)

イ 利用開始・終了の状況

開始・終了	サービス種別		29年度	30年度	令和元年度 (9月末現在)
新規利用開始	自立訓練	機能訓練	9	15	5
		生活訓練	12	5	9
	施設入所支援		8	6	5
利用終了	自立訓練	機能訓練	8	8	8
		生活訓練	11	14	1
	施設入所支援		7	10	2

＜令和元年度の月別の状況＞

※「月末現在数」の「計」は「月平均値」

		4	5	6	7	8	9	計
新規	自立訓練	2	3	5	3	1	0	14
利用	入所支援	1	1	2	0	1	0	5
利用	自立訓練	1	1	2	2	1	2	9
終了	入所支援	0	1	1	0	0	0	2
月末現在数		29	31	34	35	35	33	32.8
	入所支援	8	8	9	9	10	10	9.0
短期入所延人数		3	2	2	2	5	5	19
	実利用者数	3	2	2	2	4	3	16

ウ 自立訓練終了者の状況（平成30・令和元年度分）

※令和元年度は9月末現在

年度	訓練種別	復職	新規就労	就労移行支援施設	就労継続施設等	生活介護事業所	その他施設	介護保険サービス	学校	その他	合計
30年度	機能訓練	1	0	2	1	0	0	3	0	1	8
	生活訓練	3	1	1	3	0	0	1	1	4	14
	合計	4	1	3	4	0	0	4	1	5	22
元年度	機能訓練	1	0	0	1	0	0	3	0	3	8
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計	1	0	0	1	0	0	3	0	4	9

令和元年度
平成31年度

「高次脳機能障害 入門講座」

後期申込用

この入門講座は、高次脳機能障害についての基礎知識を学ぶ講座です。1回だけの参加も可能です。

開催日	内容
10月18日(金)	1「発症からのステップ～社会参加に向けて～」 高次脳機能障害とは？発症から社会参加に向けた各ステージで意識したいこと等をお話します。
11月15日(金)	2「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 高次脳機能障害で生じる可能性のある注意障害、記憶障害及び遂行機能障害の概要と、それらに対する工夫例についてお話します。
12月20日(金)	3「社会的行動障害について」 高次脳機能障害で生じる可能性のある社会的行動障害の概要と、それらに対する工夫例についてお話します。
令和2年 1月17日(金)	4「失語症について」 高次脳機能障害で生じる可能性のある失語症の概要と、それに対する工夫例についてお話します。
令和2年 2月21日(金)	5「就労に向けて」 高次脳機能障害のある方が、働くために必要なこととは？ 就労の準備から就労に至るまで、ご本人やご家族及び支援者が、共通して知っておきたい基本的な内容や、支援・連携のポイントをお話します。
令和2年 3月27日(金)	6「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」 高次脳機能障害のある方、そのご家族から経験をお話いただきます。実際の声を聞くことで、高次脳機能障害がより具体的にイメージできるようになります。 関連事業所等紹介では、高次脳機能障害に特化した事業所の取組を報告していただきます。支援方法にお困りの方は、支援のヒントを学べます。

※前期(4月～9月)と同様の講座内容です。

時間：午前10時～午前11時

会場：京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室（京都市中京区壬生仙念町30番地）

講師：京都市高次脳機能障害者支援センター 支援コーディネーター他

受講対象者：市内にお住まいの高次脳機能障害のある方やそのご家族及びその支援者

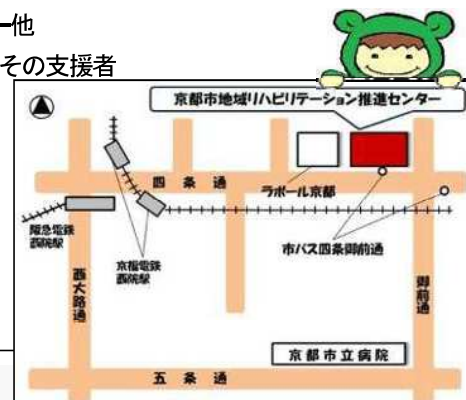
市内にお住まいの高次脳機能障害に関心がある方

定員：先着70名

参加費：無料

申込方法：裏面の「申込書」に必要事項を記載し、FAXにて
お申込みください。（電話によるお申込みも受け付けます。）

申込期間：2019年9月2日から各講座開催日の2日前まで



【申込先・問合せ先】

京都市高次脳機能障害者支援センター（京都市中京区壬生仙念町30番地）

※京都市高次脳機能障害者支援センターは、京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内にあります。

TEL：(075) 823-1658 FAX：(075) 842-1541

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く） 8:30～12:00及び13:00～16:00

ホームページ：http://koujinoukinou-city-kyoto.jp

Facebook  : https://www.facebook.com/koujinoukinou.city.kyoto

(ホームページ)



(Facebook)

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(平成31年2月発行)
京都市印刷物 第305019号

～高次脳機能障害とは～

高次脳機能障害とは、交通事故や病気などで脳が損傷を受けた後、記憶力や注意力の低下、遂行機能（物事を段取りよく、計画的に行う力）の低下、行動と感情の変化、失語等の症状により、日常生活や社会生活に支障がある状態のことを指します。身体的な障害やケガと違い、脳の損傷は外から見えないため、「見えない障害」とも言われています。



令和元年度

平成31年度

「高次脳機能障害 入門講座」 後期 申込書

必要事項をご記入のうえ、FAX してください。

ふりがな		連絡先 Tel	-
申込者氏名		連絡先 FAX	-
		※支援者の方は、事業所名を記入してください。	
		事業所名	職種
令和元年度 受講希望日（平成31年度後期）（受講希望日に○をしてください。） 10月18日（金） 1「発症からのステップ～社会参加に向けて～」 11月15日（金） 2「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 12月20日（金） 3「社会的行動障害について」 令和2年 1月17日（金） 4「失語症について」 2月21日（金） 5「就労に向けて」 3月27日（金） 6「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」			
ふりがな		連絡先 Tel	-
申込者氏名		連絡先 FAX	-
		※支援者の方は、事業所名を記入してください。	
		事業所名	職種
令和元年度 受講希望日（平成31年度後期）（受講希望日に○をしてください。） 10月18日（金） 1「発症からのステップ～社会参加に向けて～」 11月15日（金） 2「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 12月20日（金） 3「社会的行動障害について」 令和2年 1月17日（金） 4「失語症について」 2月21日（金） 5「就労に向けて」 3月27日（金） 6「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」			

※後期日程分の申込は、2019年9月2日から受け付けます。各講座の2日前までにお申込みください。
ただし、定員に達し次第、締め切りますので、お早目にお申込みください。

FAX (075) 842-1541

＜受付時間＞月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）
8：30～12：00及び13：00～16：00

令和元年度 高次脳機能障害 専門研修（支援スタッフ対象）

高次脳機能障害のある方の再出発に向けて

～地域リハビリテーションにおける支援の基本と実践を学ぶ～

高次脳機能障害のある方のうち、特に障害の程度が重かったり、心理的な落ち込みを伴う場合などは、生活リズムを確立することや、ご自身が状況を把握することに数年かかることも少なくありません。

このため、発病から数年後の再出発の時期までを想定した長期的な視点に基づく支援が求められます。

今回は、『三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック』の院長 長谷川幹先生をお招きし、地域リハビリテーションにおける支援についてお話しいただきます。

長谷川先生には、同日午後からの高次脳機能障害支援ネットワーク会議においても、講師をお願いしており、併せて参加していただくことで、より理解を深めていただけます。

皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】

令和元年 7月3日（水） 9：30～11：45
（9：15受付開始）

このような方にオススメです！！

- 経験豊富なリハビリテーション医の視点、対応方法を知りたい
- 主体性を引き出し、可能性を広げる支援を学びたい
- 医療・福祉・介護の現場で活かせる知識やスキルを学びたい 等



【会 場】 京都労働者総合会館 ラボール京都 2階大ホール
（当センター西隣、四条御前の北西）

【内 容】 講義・高次脳機能障害の症状の捉え方
・地域リハビリテーションの実践例

【講 師】 長谷川 幹氏



（三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長、
一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 理事長）

鹿教湯リハビリテーションセンター、桜新町リハビリテーションクリニック勤務等を経て
2011年から三軒茶屋内科リハビリテーションクリニックを開設。2018年5月より現職。
NHK 作成の高次脳機能障害のDVDにも出演。
著書に、「主体性をひきだすリハビリテーション～教科書をぬりかえた障害の日々～」、
「リハビリ医の妻が脳卒中になった時」、「あせらず あきらめず 地域リハビリテーション」等
多数あり。



【対 象 者】 市内の障害福祉や介護保険の事業所、
医療機関、就労関係機関、行政機関、教育機関等の支援機関の職員

【参 加 費】 無料 【定 員】 先着80名

【申込方法】 別紙申込書に記入後、FAX でお申込みください。
申込締切日：令和元年6月21日（金）（定員に達し次第締め切り）

※磁気ループ席、手話通訳、要約筆記、点字資料、拡大資料について必要な方は、6月14日（金）まで
にご連絡ください。

※この研修の一部を、厚生労働科学研究（障害者政策総合研究事業（精神障害分野）「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援マニュアルの開発のための研究」京都大学医学部附属病院精神科神経科 上田 敬太氏）の一環として実施する。



京都市
CITY OF KYOTO

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
（令和元年5月発行）
京都市印刷物 第314175号

当日のスケジュール

◆午前：専門研修（9:30～11:45）

講義『高次脳機能障害の症状の捉え方』

『地域リハビリテーションの実践例』

講師 長谷川 幹氏（三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長）

◆午後：京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議（1:00～4:45）

主催：京都府，京都市

（１）鼎談 テーマ「病院から地域への展開」

長谷川 幹氏（三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長）

上田 敬太氏（京都大学大学院医学研究科 精神医学 助教）

武澤 信夫氏（京都府リハビリテーション支援センター長）

（２）グループでの交流，情報交換および全体共有，講師からのコメント

※午前，午後両方に参加していただくことで，
より高次脳機能障害の支援への理解を深めていただくことができます。
ネットワーク会議の詳細については，別紙案内をご覧ください。

【申込先・問合せ先】

京都市高次脳機能障害者支援センター

（京都市中京区壬生仙念町３０番地

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内）

TEL：（０７５）８２３－１６５８

FAX：（０７５）８４２－１５４１

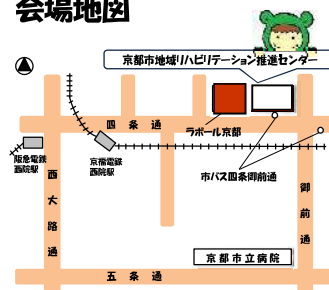
受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

８：３０～１２：００及び１３：００～１６：００

ホームページ： <http://koujinoukinou-city-kyoto.jp>

Facebook： <https://www.facebook.com/koujinoukinou.city.kyoto>

会場地図



※自家用車でのご来場はできません。
公共交通機関をご利用ください。

令和元年度

平成31年度 高次脳機能障害 支援者のためのステップアップ研修

高次脳機能障害についての基礎を学ぶ「高次脳機能障害 入門講座」を受講された支援者の方を対象に、さらに一歩踏み込んだ内容の研修として、モデルケースのグループ検討や演習を取り入れた研修を実施します。是非、ご参加ください！



＜ケース検討編＞

日 時	内 容
11月29日（金） 午後1：30～4：00	第1回 『障害特性にあわせた支援方法の検討』 高次脳機能障害のある方を支援する際、どのようなポイントを押さえて障害特性を把握し、支援方法を検討していけばよいか、モデルケースを通して理解を深めます。その後、支援者間での情報交換や交流の時間を持ちます。
12月20日（金） 午後1：30～4：00	第2回 『環境調整や代償手段の活用、支援者の役割について』 実際に、モデルケースを通して、高次脳機能障害の障害特性に応じた支援を検討し、環境調整のポイントや代償手段の活用方法、支援者の役割を学びます。



＜手順書演習編＞

1月24日（金） 午後1：30～4：00	第3回 『作業手順書の作成演習』 高次脳機能障害のある方の目的とする行動の定着を目指すためには、障害特性に配慮した手順書を用い、同じやり方で繰り返し行うことが効果的です。モデルケースの作業手順書を実際に作成し、作成の基本を学びます。
2月28日（金） 午後1：30～4：00	第4回 『移動手順書の作成演習』 高次脳機能障害により、屋内移動や外出時の道順理解及び公共交通機関の利用が難しい場合は、移動手順書を用い、支援者の関わりを統一することが効果的です。モデルケースの移動手順書を実際に作成し、修正のポイントを学びます。

会 場：京都市地域リハビリテーション推進センター1階 研修室（京都市中京区壬生仙念町30番地）

講 師：京都市高次脳機能障害者支援センター 支援コーディネーター

受講対象者：高次脳機能障害のある方の支援機関のスタッフで、当センター開催の「高次脳機能障害入門講座」を受講済みの方又は、高次脳機能障害の基礎知識がある方

定 員：先着30名

参 加 費：無料

申 込 方 法：裏面の申込書に必要事項を記載し、FAXにてお申込みください。

（電話によるお申込みも受け付けます。）

申 込 締 切：各開催日の2日前（ただし、定員に達し次第、締め切ります。）

【申込先・問合せ先】

京都市高次脳機能障害者支援センター（京都市中京区壬生仙念町30番地）

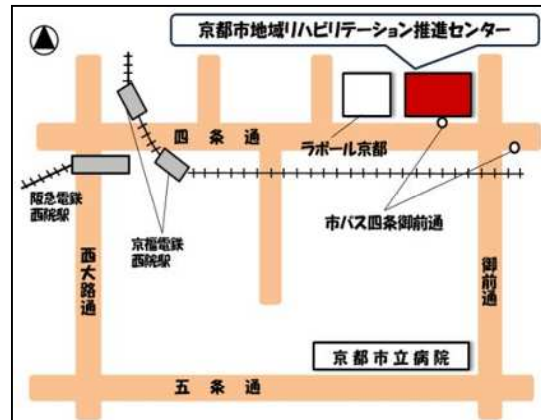
※京都市高次脳機能障害者支援センターは、

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内にあります

TEL：（０７５）８２３－１６５８ FAX：（０７５）８４２－１５４１

【受付時間】月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

８：３０～１２：００及び１３：００～１６：００



「平成31年度 高次脳機能障害 支援者のためのステップアップ研修」参加申込書
令和元年度

FAX 番号 075-842-1541



申込者氏名 及び職種	ふりがな 氏名	職種 ()
所属先事業所名		
連絡先 TEL		
事業所所在地		
参加希望日 (□にチェック)	<ケース検討編> □第1回 11月29日(金) □第2回 12月20日(金)	<手順書演習編> □第3回 1月24日(金) □第4回 2月28日(金)
(参考) 入門講座の 参加に関して	当センターの入門講座に参加されたことがありますか。 (ある ・ ない ○印をお願いします。) ※当研修では、入門講座を受講された支援者の方又は高次脳機能障害の基礎知識のある支援者の方を対象としています。入門講座のような基礎的な内容は含みませんので、ご理解の上申込みいただきますようお願いいたします。	

☆ 介護保険施設・事業所職員（支援スタッフ）対象 ☆

よくわかる

高次脳機能障害セミナー

昨年ご好評をいた
だいたので、今年も
開催します！！

脳血管障害で高次脳機能障害となった場合、40歳以上の方は介護保険の対象となりますが、実際に支援にあたられている施設・事業所の職員の方からは「高次脳機能障害の対応は難しい。認知症との違いが分からない」等の声をよく聞きます。介護の現場において、高次脳機能障害をどのように理解し対応すればよいかについて、数多くの高次脳機能障害の方の治療に関わり、全国でも多数ご講演されている医師からわかりやすくお話いただきます。認定調査員現任研修会と同日（午前に同会場）での開催です。ぜひご参加ください！

「認知症ケアの知識と経験はこう使える！ ～ 共通点と相違点 ～」

日 時 令和元年 12月16日（月）

時 間 10:15～12:00（開場 9:45）

会 場 京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
西館1階「テルサホール」

講 師 上田 敬太 氏（京都大学大学院医学研究科 精神医学 助教）

※京大病院他で高次脳機能障害者の治療に従事。神経心理学会、高次脳機能障害学会
などで研究活動を展開。全国で多数講演。

対象者 京都市内の介護保険施設・事業所の職員

※医療、福祉、就労、教育、相談支援等の関係機関職員の方もご参加いただけます。

申込方法 裏面の申込書に記載の上、FAXでお申込みください。

※FAX受領の連絡はいたしません。申込後、当日直接会場へお越しください。

参加費無料



（締切 12月12日（木））

<お問合せ> 京都市高次脳機能障害者支援センター

（京都市地域リハビリテーション推進センター相談課）



TEL: 075-823-1658

FAX: 075-842-1541

令和元年12月16日「よくわかる高次脳機能障害セミナー」申込書

1. 受講者の所属先をご記入ください。

所属先			
所在地	〒 —		
電話/FAX	電話 — —	/	FAX — —

2. 受講者の氏名等をご記入ください。

ふりがな			
氏 名			
職種		保有資格	介護福祉士・訪問介護員・介護支援専門員・ 社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師・ OT・ST・PT・その他（ ）
ふりがな			
氏 名			
職種		保有資格	介護福祉士・訪問介護員・介護支援専門員・ 社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師・ OT・ST・PT・その他（ ）
ふりがな			
氏 名			
職種		保有資格	介護福祉士・訪問介護員・介護支援専門員・ 社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師・ OT・ST・PT・その他（ ）

* 上記の必要事項をご記入のうえ FAX してください。

* 申込先 : FAX : (0 7 5) 8 4 2 - 1 5 4 1

京都市高次脳機能障害者支援センター (京都市地域リハビリテーション推進センター相談課)

FAX の受領に関して、当センターから連絡いたしません。
申込後、当日直接会場へお越しください。

